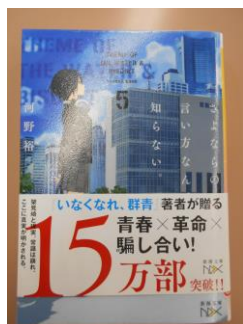




「新刊紹介 4月号！！」

「さよならの言い方なんて知らない。5」 河野 裕



冬間美咲。あるいは、ウォーター。架見崎という街から生まれた、最も新しい伝説・香屋歩を英雄と呼ぶ、美しい少女。だが、彼女は現実世界で死んだはずだった。ありえない再会は、なぜ叶ったのか。

「料理なんて愛なんて」 佐々木 愛



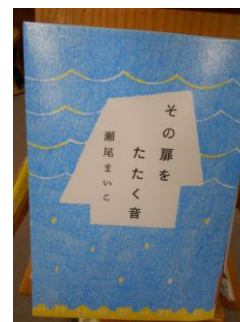
料理嫌いな優花は、ずっと好きだった真島に高級バレンタインチョコを渡すも「好きな人に手作りチョコをもらったから」と振られてしまう。真島が憧れていた相手は料理教室の先生だった。その日から、彼女の格闘と迷走が始まった！

「母影」 尾崎 世界観



行場のない少女は、カーテン越しに世界に触れる。デビュー作『祐介』以来、4年半ぶり初の純文学作品。小学校でも友だちをつくれず、居場所のない少女は、母親の勤めるマッサージ店の片隅で息を潜めている。 第164回芥川賞候補作

「その扉をたたく音」 瀬尾 まいこ



人生の行き止まりで立ちすくんでいる青年と、人生の最終コーナーに差し掛かった大人たちが奏でる感動長編。2019年本屋大賞受賞作家が贈る、たしかな希望の物語。

「会いたくて会いたくて」 室井 滋



「行っちゃダメ！」おかあさんに止められたぼくは、おばあちゃんにこっそり会いに・・・今、いちばん想う人と読んでほしい、心あたたまる「幸せのしるし」の贈り物！読むと心が温まって大切な人に会いたくなる、人生で大切にしたい言葉が詰まった絵本。

「クララとお日さま」 カズオ・イシグロ



人工知能を搭載したロボットのクララは病弱の少女ジョジーと出会い、やがて二人は友情を育んでゆく。生きることを意味を問う感動作。愛とは、知性とは、家族とは？